

051

「データ連携基盤」を活用した和歌山市  
応急給水ポータルによる断水復旧支援

取組主体

株式会社ウフル

従業員数

228人

想定災害

全般

実施地域

和歌山県

- 断水発生時、給水所の場所や混雑状況等を地図上で可視化するサービス「応急給水ポータル」を開発。データ連携基盤を活用し、誰もが操作・利用しやすいサービスをスピーディーに実現した。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

断水発生時の給水所の場所や混雑状況等を地図上で可視化するサービスの迅速な立ち上げ

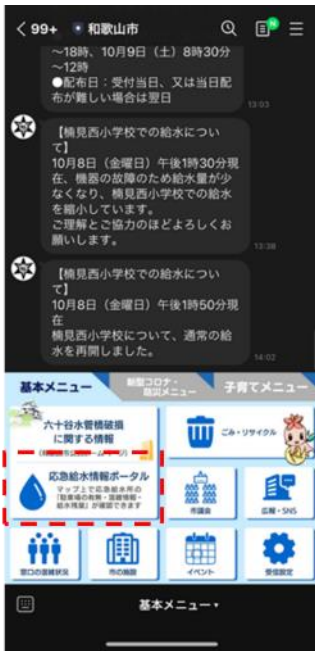
- 「テクノロジーと自由な発想で、持続可能な社会を創る」を理念として、企業や社会のDX（デジタルトランスフォーメーション）とデータ活用を支援、推進している株式会社ウフルは、令和3年10月3日に和歌山市で発生した六十谷水管橋崩落による断水被害の対策として、給水所の場所と混雑状況等を地図上で可視化する「応急給水ポータル」を開発した。
- 水管橋崩落は、紀の川以北地域の約6万世帯（約13万8千人）の生活を直撃し、給水所に行っても行列ができていて何時間も待つ、車で行ったが駐車場がない、並んでいると水が無くなったといった混乱が発生した。こうした中で、和歌山県が誘致したIT企業の1社であり、和歌山県白浜町にオフィスを構える同社は、和歌山市職員と市民が給水に関する情報を共有できる仕組みの整備に困惑している状況を目の当たりにした。
- 同社は、スピード重視で市と連携を取り、打ち合わせもすべてオンラインツールで対応して、48時間で「応急給水ポータル」を立ち上げることに成功した。和歌山市は本事案発生以前から、スマートシティ実現に向けて同社と連携を行っており、本事案発生の際に、予め準備されていた同社のデータ連携基盤を活用したことによって、迅速な給水ポータルの立ち上げにつながった。
- 「応急給水ポータル」では、地図上のピンにポインターを合わせると、駐車場の有無、給水残量、現場の混雑状況や次回給水車が来るタイミングが表示される。当サービスにより給水状況が可視化され、市職員の業務改善につながり、給水所との連携が取りやすくなったほか、市民に対する給水所の混雑によるストレスを軽減できた。誰もが操作・利用しやすいサービスとなっており、5日間で6.3万のページ閲覧数が確認された。



和歌山市で発生した水管橋の崩落



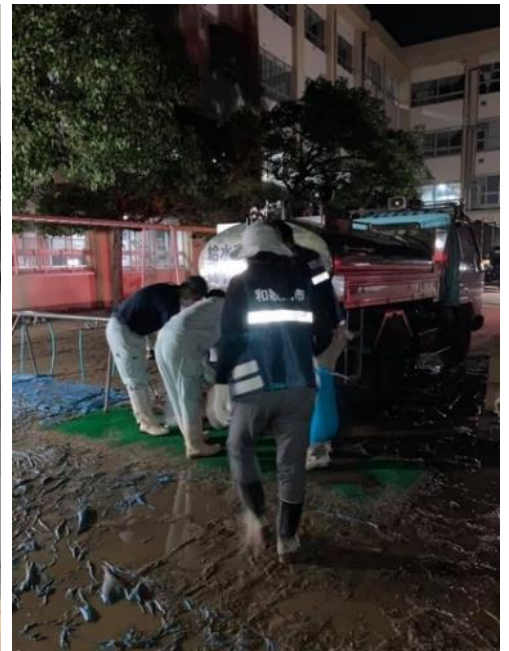
給水ポータルの画面イメージ



和歌山市 LINE 公式アカウントの給水ポータルへのリンク



和歌山市における給水所の様子



## 2 取組の平時における利活用の状況や防災・減災以外の効果

- 同社と和歌山市職員との日常的なコミュニケーションの中で信頼関係が醸成され、官民のオープンイノベーションが実現されたことが本取組の重要な要素であった。本事例をきっかけに、各自治体においてスマートシティの推進やデータ連携基盤の導入等、同様の取組が進むことが期待される。

## 3 現状の課題・今後の展開等

- 非常時を想定したポータルサイトを各自治体が用意した上で、いざという時に行政・住民が活用できる環境を整えることが課題である。今後は水位や避難所情報等も掲載した防災ポータルや、地域の飲食店等と連携した地域活性ポータル等を開発し、平時と災害時の両方で利用できるポータルサイトを開発していくとしている。

## 4 周囲の声

- 混雑状況等、情報が多くとても便利。今後の災害にも備えて改良を続けてほしい。(SNS 上の声)
- 「ポータルを見て給水所に来ました。」と言ってもらえた。混雑状況の更新が簡単で、他の給水所の混雑状況が見えるので、市民に近くの給水状況を案内できた。(和歌山市職員)

### 担当者の声

- 災害発生時には、市民と自治体内で情報が錯綜し多くの混乱が予測されるため、自治体内での素早い意思決定と市民へ整理された情報をタイムリーに発信していくことが重要となります。また、各対応に従事する職員の人手不足に備えて、予め自動化できるプロセスの検討・準備をしておくことで災害発生時の混乱を最小限に抑えることができます。当社は IoT センシング技術や事業開発のノウハウを活かした防災ソリューションの開発に取り組んでいます。今後も、地域経済の活性化やそれぞれの地域課題に応じて密に最適化を行いながら事業を推進し、都市部を含めた全国各自治体の課題解決実現に貢献していきます。

### 問合せ先

株式会社ウフル 法人番号：7010401095879  
 TEL：050-1746-8888 FAX：03-6800-3340  
 E-Mail：contact@uhuru.jp

### サイト URL

